行　政　視　察等報告書

令和元年　8月2日

長浜市議会議長　　様

会　派　名　　改革こほく[redacted]
議員名　　柴田光男

議員調査活動にかかる次の会派研修等の結果について報告します。

記

1．研修等名　　会派　改革こほく議員研修

2．研修期間　令和元年　7月26日（金曜日）～28日（日曜日）

3．研修場所　　①鹿児島県西之表市
②鹿児島県鹿屋市串良町
③宮崎県小林市

4．研修目的
① 地域活性化交流拠点施設「こうのみね館」について
② 地域再生・創成(やねだん)について
③ 小林市商工観光施策について

1、「こうのみね館」ついて

西之表市とは、鉄砲が取り持つ縁で姉妹都市が締結され、長年スポーツ少年団との交流が続いております。そんなこともあり心安く視察受け入れをしていただきました。

ここでは、少子化で統廃合の中、廃校となった小学校施設の利活用で活性化をされた先進事例を学びたく訪問しました。

当施設は大正３年に桜島移住児童のために新設され、昭和２４年新築、平成２６年廃校となりました。

当然廃校となれば市域のシンボルが無くなり寂しい状況となります。跡地活用に向けて協議され、地域活性化に向けて国庫事業を導入した「疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業」として約２０００万円の補助金で、小学校跡地改修事業・入浴施設整備が行はれた。

平成２９年１０月　中割地区地域活性化交流拠点施設（愛称：こうのみね館）が開所され、管理運営については当地区に委託。

中央公民館的要素・旧小学校の記念館的な部分を保持し多用途の施設として活用されている。

事業としては、

・地域おこし協力隊の活動拠点として

・出郷者来訪時の交流場所として

・宿泊施設として島外の方に活用

・運動場、講堂の有効活用（各種イベント会場として）

地域の交流の場所として活用することは勿論の事、島外の方との交流の場所としても活用されている。

今後の課題として

・宿泊利用者の確保として各大学等へのＰＲ

・地域資源の整備や、体験型メニューでの集客、情報発信などである。

所　感

長浜市においても少子化の中、今後学校の統廃合は避けて通れない状況です。今日まで廃校になった学校施設の跡地利活用は進んでいないのが現状です。今回の事例のように地域の方と協議を進め地域の活性化に繋がる施設の活用が求められます・

２、地域再生・創成　（行政に頼らない感動の地域づくり）「やねだん」について

鹿児島県鹿屋市　柳谷町内会　（やねだん）は地域再生に向け補助金に頼らない地域興しを実践されておられ全国から注目を浴びておられる地域です。

この地域の住民である　豊重哲郎氏　のリーダー的活動で、住民一体となった地域づくりを展開された。高齢化が進む中地域の活性化のためには何が必要なのか、地位の特色を活かした農業や産業を生みだされた。この過程においては様々な問題もあったが、地域住民の方の理解と協働があって、この地域の取り組みが全国でも注目されるまでになった。

人口３００人の自治会で、住民協働による地域づくりの取り組みは、年間５０００人もの視察者が訪れ研修をされておられます。又　「やねだん故郷創世塾」　を開講され多くの方が学びに来られ昨年で第２６回目を開催されている。

豊重先生の説明をお聞きする中で、地域づくりでの思いをご自分の体験と住民の方の協力で進められた事を熱心に、又情熱的にわかりやすく説明され感動いたしました。

所　感

「やねだん」の取り組みは高齢化が進み人口減少が進む中、私たちの地域活性化のためにはどう向き合っていくのかのヒントがあった。地域を住民たちの手で盛り上げていく情熱と、それを指導できる人材の必要性です。

長浜市全てにまちづくりセンターも確立され、それぞれの地域での取り組みが重要であり、地域の特色と人材を活かした活動を推進するためには、まちづくり協議会での将来に向けての取り組みについて、十分な討議と計画が必要です。そこには行政のハード、ソフト面での支援も当然必要です。

特に今回の研修で感じたことは、情熱を持った指導者とそれに理解し協働して頂く住民の力だと思います。昨今、全てにおいて行政頼りの感がありますが自助・共助・公助でまちづくりを推進する事が求められます。

３、小林市観光施策について

今回視察は小林にある宮崎県水産試験場内で官民一体での大規模なチョウザメの養殖場と小林市商工観光課の「出の山淡水魚水族館」です。

県では1983年に水産試験場で初めてチョウザメ200匹の飼育がされ、その後市では、チョウザメの養殖業者の新規参入や育成を図るため、市営チョウザメ養殖施設の整備をされた。平成２７年４月から養殖を始められ、敷地１８７０平方メートル。直径６メートルの水槽１基と直径８メートルの水槽７基、水中ポンプや自動餌機など事業費4400万円をかけ整備。施設の管理は、市内の養殖業者に委託されている。

チョウザメは、キャビア生産までに7～１０年近くかかるため、収入が得られるまで時間が新規参入の壁が高いことが課題となっていました。市営養殖業者の設置によって育成費を市が負担することで養殖業者の負担軽減を図られた。

又、敷地内隣接の「出の山淡水魚水族館」は幾つもの水槽に県内に生息する淡水魚を始め海外の珍しい淡水魚１３０種１５００匹の観察できる水族館です。子どもたちの教育の場所として、又、家族や、カップルで過ごす場として利用されておられます。

所　感

小林市のこの施設は立地条件も良く、市の観光商工課が積極的に関わり支援されています。

長浜駅街テラスの一部に水槽がありますが、びわ湖に隣接する市としてびわ湖に生息する淡水魚を中心に世界の淡水魚が観察できる水族館で多くの市民や、観光客を集客できると考えますが一例として紹介し市の積極的な取り組みを切望します。